

# 北農（中央会・ホクレン） （信連・厚生連・共済連） 4人に聞く トトツプ

国民生活に不可欠な食料を安定供給する北海道の農業。この6月、JAグループ4団体の役員が改選され、会長・副会長が大幅に入れ替わった。会長4氏に、北海道農業の展望や課題、コロナ禍への対応などを聞いた。  
（撮影・大島譲）

## JA北海道中央会

### 小野寺 俊幸会長

— 今回のJAグループの改選は大幅な入れ替えとなり、世代交代が進みました。

そうですね。世代交代が進んだことで、次の北海道農業を担える体制が整ったと実感しています。今回就任した若い役員は長期的な視点で、私を含

むベテランの役員は北海道農業を次の世代に繋ぐ中期的な視点で活動していくことが重要です。

また、一斉に交代することに対してさまざまなご意見があることも承知しておりますが、良い世代交代であったと評価していただくためにも



（おのであとしゆき）1951年生まれ、卯年。常呂郡常呂町（現北見市）出身68歳。北海道立農業講習所卒。00年常呂町農業協同組合代表理事組合長。農業開発公社理事、厚生連理事、信連理事を経て、17年道中央会副会長。20年6月から現職。

我々としてはさまざまな課題にグループ一丸でチャレンジし、課題解決に向け取り組んでまいります。

— 新型コロナウイルスの影響による休校は、農業界にも大きな被害をもたらしました。

学校が休校になったことで、給食向け牛乳が供給先を失った。極めて厳しい状況でした。

ですが、乳業メーカーが加工品の原料としてその牛乳を積極的に活用してくれたこと、また、国も予算を組んで事業者を支援してくれたことで、一滴の生乳も無駄にすることなく乗り越えることができました。連合会が一丸となって迅速な働きかけをしたことも、ひとつの成果として実感しています。なによりも牛乳をもう一杯飲んで

いただく「プラスワンプロジェクト」などをはじめとする、消費者の方々の意欲的な協力があったからこそ。心から感謝申し上げます。

— そのほかにも「消費イベント」が実施されています。

その通りです。花きも卒業式をはじめとする節目のイベントが軒並み中止となったことで、需要が落ち込みました。そのため、JAグループ北海道では「みんなのよい花

## 地域住民もJAの同志

— 具体的な課題について。やはり「担い手」問題が大きいと思います。

「担い手」の問題というのは、北海道だけでなく全国的な問題ですが、今では「農業」担い手不足」という図式ができて

プロジェクト」を展開し、道産花きのPRを実施しました。また、企業の協力による販売会も開催することができました。これについても感謝があります。

この先、米をはじめ、多くの農畜産物の消費減少を心配しています。特に「酒米」の消費減に対しては早急な対策が必要です。酒の消費を促すキャンペーンなどを考案中です。

がつてしまっている。しかし、新規就農者のなかには、インターン・Uターンして就農する人もいるほか、第三者継承によつて就農している方もおり、北海道農業公社と共に支援を行って

るところです。また、年齢的なことでやむを得ず離農しなければならぬ組合員も一定程度いますが、離農する農家の農地を借り受け、規模を拡大しICTを使った農業に取り組んでいく経営者もいます。課題ばかりを強調するのではなく、前を向いた新しい農業を発信する必要があります。

— JAグループ北海道東京本部が新設されましたが、その意図は。

組合員から農政対策重点化の要望があり、具体的な施策のひとつとしてJAグループ北海道東京本部を新設しました。組合員のために営農や農政だけでなく、総合JA機能や地域医療を守る取り組みなど、これまで以上に5団体が協力、連携し活動してまいります。5

# 農村女性、の活躍推進

## 女性が輝き、営農できる環境を



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)